

科学的知見の創出に資する可視化：

日本発の可視化研究ブレイクスルーに向けて

日時 平成 30 年 **12 月 15 日 (土)**
13:00 ~ 18:00

会場 日本学術会議講堂 外1室
東京都港区六本木 7-22-34
東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口

入場無料、事前申し込み不要 当日はお名刺をご用意ください

主催 日本学術会議 総合工学委員会
科学的知見の創出に資する可視化分科会

共催 可視化情報学会、日本シミュレーション学会、画像電子学会、芸術科学会、
情報処理学会コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会、画像情報教育振興協会 (CG-ARTS)



1980年代に欧米の研究機関から発信が開始され、種々の学理に浸透してきたデータ可視化技術は、現在、成熟の域に達しています。一方で、データ可視化技術の新たなブレイクスルーが模索されていますが、現状は混沌としており、様々な提案がなされているものの、大きな流れは生じ得ないでいるのが現状です。そこで本シンポジウムでは、可視化という研究分野の枠組みを大胆にリストラクチャリングし、同時に、文系・理系の垣根を越えた文理融合型の研究分野として発展させるためのアイデアを探ることを目的としています。とくに、日本の強みを活かした日本発の新しい可視化技術の創出を目指します。理系・文系にかかわらず、多くの研究者や技術者、そして可視化技術に興味を持つ多くの方々にご参加いただければ幸いです。

プログラム

- 13:00 開会挨拶 小山田耕二 (日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授)
- 13:10 趣旨説明 田中覚 (日本学術会議連携会員、立命館大学情報理工学部教授)
- 13:20 Emerging Visualization Research Directions
司会 藤代一成 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授)
講演 Kwan-Liu Ma (カリフォルニア大学デービス校教授)
- 14:20 文化遺産の記録と再現 ——「コト」のデジタルアーカイブ——
司会 大倉典子 (日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学工学部教授)
講演 八村広三郎 (立命館大学特任教授)
- 15:20 可視化がもたらす新たな発達科学の可能性
司会 田中覚 (日本学術会議連携会員、立命館大学情報理工学部教授)
講演 明和政子 (日本学術会議連携会員、京都大学教育学研究科教授)
- 16:30 パネル討論「日本発の可視化研究ブレイクスルーに向けて」
ファシリテータ 行場次朗 (日本学術会議会員、東北大学大学院教授)
討論者 前半の部の講演者・司会者・その他分科会メンバ
- 18:00 閉会挨拶
萩原一郎 (日本学術会議連携会員、明治大学研究知財戦略機構特任教授)

お問い合わせ先

立命館大学情報理工学部 田中覚 (stanaka[at]is.ritsume.ac.jp)

慶應義塾大学理工学部 藤代一成 (ifujishiro[at]keio.jp)

※ [at] は @ に置き換えて下さい